

あり茂木民部が息男後室に先途を見届んと茂木が
城より手の者三十余人引具一ノ角館に来る如守山と云
所めく主殿助が隠謀を聞かれ共其虚實を志しし流
石主殿助ハ之騎當千と頼まれし者故左様ハ有る歟と
思ひ角館に行日志北者止は事をヤルれども一ハ
企たしめく聞主殿助が宅は行利殺一ノ下合を搦
捕は事變事小ありぬ一彦九郎道盛云中聞届有
不便と思召主殿助が子三人あり一と女二と門を急ぎ助三ハ
文に急と一へ彼等を招いて倒しをせられし相八柳後
室より一ハ小笠原本堂六郷白岩止援兵を所頼

い得とヤルれ共兼引しめく一八柳男ハ平九郎殿十三
家の兩年が内大運を同から應一それを一途に討死と云
つゝ極めやし一城を落されてい夜なり親族れ方止一
應頼より一軍ありト也平九郎殿御頼とヤて山
八藏より一者ハ密に一合のきすい時八藏密状を草
履の下にそり付圖所を通る是ハ依て櫓園より山
田丹波守宮川日向守三百余騎本堂より河井主
水槻甲斐守連左兵衛等ハ二百余騎六郷白岩
自刃出張して小野寺勢に後をさそり今と後世の
勢を指櫓園本堂のか勢八月十四日角館城に著ス